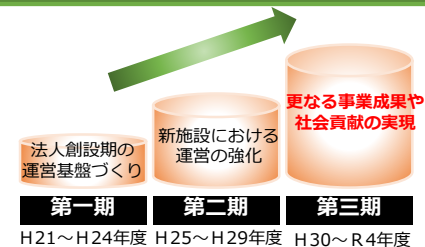


令和 2 年度
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
年度計画（案）（概要）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

第三期中期計画

～これまで培ってきた技術・知見を活用し全都的な取組を展開～



【重点方針】（計画期間：平成30年度から5年間）

- ①高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及
- ②高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究
- ③医療と研究が一体となった取組の推進
- ④高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成
- ⑤業務内容の改善及び効率化
- ⑥財務内容の改善等

令和2年度計画のポイント

医療と研究が一体となり、一層の社会貢献を達成するための新組織を設立

認知症未来社会創造センター

○認知症社会とも言うべき時代の到来に備え、当センターがこれまでに培った膨大な臨床・研究データ等を活用し、AIなどを用いた新たな認知症予防の取組を推進していく。

臨床

- 国内有数のもの忘れ外来開設（平成11年）
精神科・神経内科・研究所医師が連携して診療、治療の向上
- 認知症疾患医療センター指定（平成24年度～地域拠点型）
区西北部二次保健医療圏の認知症医療・介護連携の拠点として地域の支援体制を構築
- 画像データの蓄積（PET 約13,000件 MRI 約6.5万枚/年）



研究

- 高齢者ブレインバンク 日本最大の脳組織蓄積（老年性疾患の脳組織 約2,100件）
- 高齢者疫学研究
都内外の地域コホートでの調査データ・保存検体による観察研究や東京都後高齢者レセプト分析により、**認知症のリスク要因、認知症抑制効果を解析**
- 認知症とともに暮らす地域づくり（平成28年度～：都から受託）
大規模団地等において認知症支援の拠点を設置し、多職種協働による社会支援や地域づくりを推進

教育研修

- 認知症支援推進センター（平成27年度～：都から受託）
医療従事者等への研修や島しょ地域への訪問研修により、都内全体の認知症対応力を向上
- 初期集中支援研修（平成24年度）
評価方法DASC-21※を考案し
全国で使用されている



※DASC-21
The Dementia Assessment Sheet for
Community-based Integrated Care System

フレイル予防センター

○フレイル予防は介護予防の観点からも重要な課題であり、センターの持つ知識と技術を統合的に活用することで、フレイルでも快適に過ごせる社会の形成に貢献する。



HAIC

サルコペニア基礎研究

- ・筋委縮などの病態解明や早期診断バイオマーカーの探索
- 地域におけるアクションリサーチ
・フレイル予防の仕組みづくりと介護予防効果を実証（大田区元気シニアプロジェクト）
- 介護予防推進支援センター（平成29年度～：都から受託）
・地域づくりによる介護予防に取り組む人材を育成

研究推進の基盤強化

- ・産学官連携による老年学における基礎・応用・開発研究
- ・研究データ等の管理活用体制を整備

生活機能の維持・回復に向けた医療を提供

- ・フレイル外来での個々の症状にあった栄養、運動指導
- ・ポリファーマシーチームによる適正な服薬管理
- ・栄養サポートチームによる栄養介入
- ・疾患別リハビリテーションの早期実施



1. 概要

①背景と目的

○2040年には認知症1,000万人、その前段階のMCI 1,000万人、認知症社会とも言うべき時代の到来が予測（東京都だけでも200万人以上の認知症とその予備軍が見込まれる）

○令和元年6月、認知症施策推進大綱が発表され、共生と予防が施策の柱に位置付け

○こうした状況を踏まえ、当センターが認知症対応のための医療と研究の最先端を切り拓き、都民への貢献を果たす新たな取組を実施

②取組内容

○これまで培ってきた膨大な臨床・研究データに、AIなど最先端技術を活用し、新たな認知症予防の取組を推進

○都から受託している認知症支援推進センター等の事業推進を通じ、人材育成や地域づくりなど共生にも貢献



【地域づくりの取組事例（高島平ココカラステーション）】

「認知症予防もケアも、東京に住んでいて良かった」と言われるような先見の明が社会実装につながる成果を目指す。

2. 令和2年度の主な取組

ビッグデータを活用した健康長寿DB

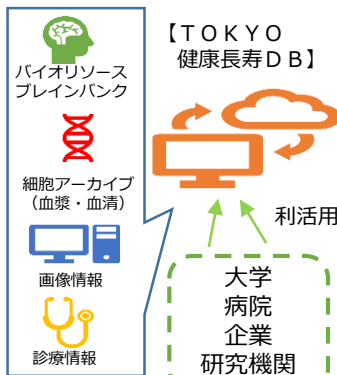
① TOKYO健康長寿DB

《事業の内容》

- ・センターの保有する各種データを統合し、オープンに活用可能なDBを構築

R2年度目標

- ・保有データの統合化を開始
- ・DBシステム設計



②メディカルゲノムセンター

《事業の内容》

- ・生体試料（臓器、細胞、血液等）の保管・提供や生体試料からゲノム解析
- ・低コスト・低侵襲な診断を可能とする体液バイオマーカーの開発

R2年度目標

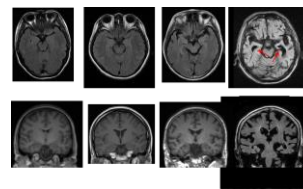
- ・包括的研究同意取得方法等の検討
- ・既存のバイオリソース、ブレインバンクの統合に向けた検討
- ・体液検体蓄積の開始

AI 認知症診断システムの構築

① AI 診断システムの構築

《事業の内容》

- ・MRI画像データを活用し、AIによる認知症診断支援を実施し、医療現場における早期診断をサポート



【AIへの教師あり画像の例】

R2年度目標

- ・AI診断システム全体の設計・構築
- ・主要な脳疾患の画像データを教師データとして加工

② AIチャットボットの開発

《事業の内容》

- ・AIを搭載した自動会話プログラムを開発し、在宅高齢者に展開し、認知症の早期発見・早期支援につなげる



【チャットボット活用イメージ】

R2年度目標

- ・AI会話機能の活用研究に着手

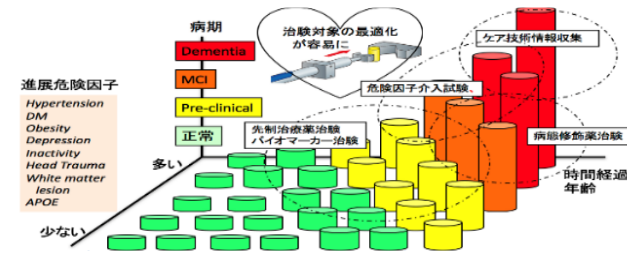
地域コホート等ビッグデータの活用

①地域コホート研究データの統合及び活用

《事業の内容》

- ・地域コホート研究※データを統合して活用し、生活習慣や病歴等が高齢者の認知機能の変化に果たす役割を明確化
- ・認知症リスクチャートを作成し、予防的介入の確立・普及を図る

※地域コホート研究…特定の要因を有する集団と有していない集団とを一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生率を比較する観察的研究



【認知症に関するリスクチャートのイメージ】

R2年度目標

- ・過去データの精査、項目データのカatalog作成
- ・過去データの統合

フレイル予防センターの設立

1. 概要

①背景と目的

- 高齢者の1割以上を占めるフレイルは、高齢者の1/3を占めるプレフレイルから移行
- 生命予後ばかりでなく、要介護への移行率が2割を超えることから、介護予防の観点からも重要な課題
- こうした状況を踏まえ、当センターの医療・研究部門が一体となって、フレイル予防の取組を推進していくための新たな組織を立ち上げる。

②取組内容

- 栄養指導**：歯科・栄養士の診断のもと、摂取の円滑化、蛋白摂取不足の改善
- 運動指導**：年齢と運動耐用能を循環器内科・整形外科・リハビリテーション科の観点から点検し、ロボット・AI等の活用も視野に入れつつ、運動指導を実施
- 薬剤の整理**：ポリファーマシーはフレイル高齢者では健康高齢者より数倍死亡率が高いことから、多投薬の見直し
- 大脳白質病変悪化の予防**：大脳白質病変に伴う老年症候群はフレイルの危険因子として有力である。動脈硬化予防の観点から、高血圧・糖尿病など生活習慣病のリスクを点検し、ガイドラインに沿った生活指導を実施
- 地域との連携**：フレイルチェックシートを活用し、フレイル悪化の危険因子を同定するとともに、社会的要因の関与を明らかにし、フレイル予防の展望を示す
- 基礎研究の充実**：フレイルの中核となるサルコペニアの病態解明、バイオマーカーや創薬に繋がる基礎研究の充実



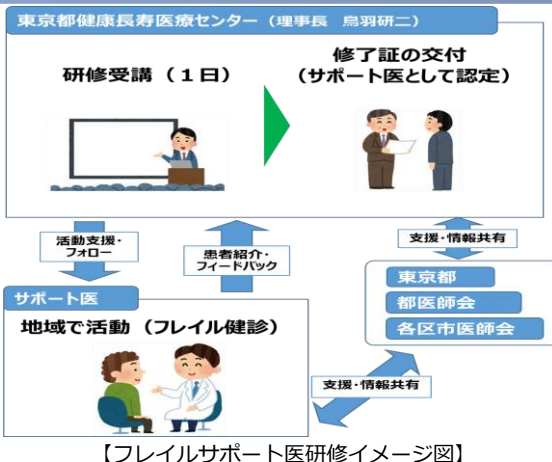
医療・研究部門の知識と技術を統合的に活用し、**フレイルでも快適に過ごせる社会の形成に貢献**

2. 令和2年度の主な取組

フレイルサポート医研修

《事業の内容》

- ・フレイルへの理解と対応力の向上を目的とした「フレイルサポート医」の資格を創設
- ・日本老年医学会からも認定を受けた資格とするなど、関連学会とも連携
- ・研修によりフレイルサポート医を養成し、フレイルやその疑いがある者に対して、診断・治療から介護などの様々な支援を途切れることなく受けられるようサポートし、地域における体制づくりに貢献



R2年度目標

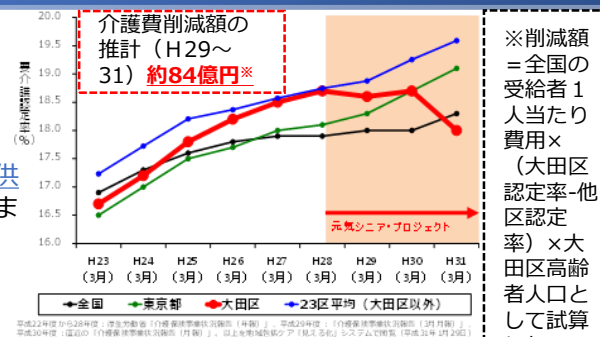
- ・板橋区においてパイロット的に研修事業を実施
- ・関係機関への情報提供・協力依頼

介護予防・フレイル予防推進支援センター

(※都からの受託事業)

《事業の内容》

- ・住民主体の介護予防・フレイル予防活動等を推進する区市町村に、専門的・技術的支援を提供
- ・フレイル予防の視点を踏まえたプログラム等を提供
- ・地域特性に応じた多様な通いの場の展開を支援



【大田区事業による要介護認定率の低下】

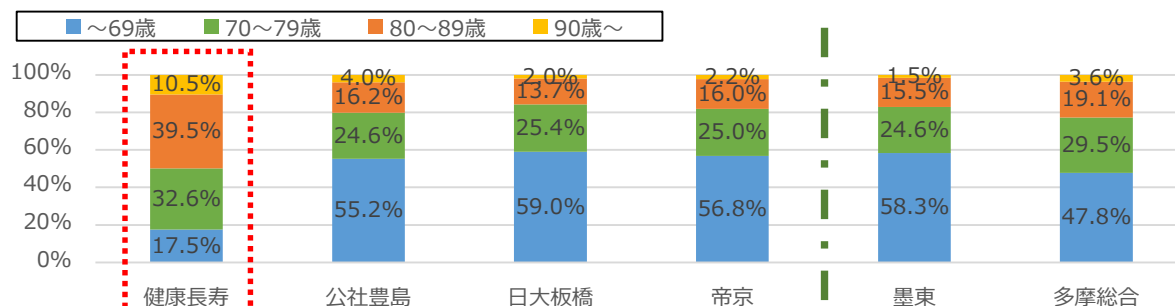
- ・**フレイル予防活動の担い手の育成支援**
- ・**地域診断指標を選定し、活動二エズ・地域資源を把握するための郵送調査を実施**
- ・**大田区事業のデータを活用し、都下で活用可能な事業評価・分析パッケージを開発** 等

R2年度目標

令和2年度計画 部門別の主な取組内容①



【入院患者年齢構成の他病院との比較（※H30年度DPC情報の公表数値より集計）】



（※小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。）

○センターの入院患者の年齢構成は、80歳以上が約5割、70歳以上が約8割となっている。
○一方、他病院では80歳以上は2割程度、70歳以上は4~5割となっており、センターの高齢患者の割合は他病院と比較しても非常に高い水準にある。

こうした状況を踏まえ、**高齢者の特性に合わせた最適な医療の提供**を実施していく。

【三つの重点医療を始めとする高齢者医療の充実】

①血管病医療

- 東京都脳卒中救急搬送体制におけるt-P A治療可能施設として、**病院独自の24時間体制脳卒中ホットラインを活用**し、t-P A治療及び緊急開頭術、血管内治療術など、**超急性期脳卒中患者治療を積極的に行う。**
- 東京都CCUネットワークに引き続き参加**するとともに、**急性大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈支援病院**として、急性大動脈疾患に対する適切な急性期医療を提供する。
- 経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI/TAVR）を再開**するなど、医療体制の更なる充実・強化に努める。



【TAVIに用いる人工の大動脈弁】

②高齢者がん医療

- 胃がん、大腸がんに対する腹腔鏡下手術、肺がん、食道がんに対する胸腔鏡下手術などを推進**し、高齢者に対してより低侵襲ながん治療を提供する。また、探索的に基礎研究を活かして、膀胱がんの生検評価をもって研究部門との連携を高める。
- 化学療法や放射線治療などの手術以外のがん治療法を充実**させ、患者の状況や希望に合わせた医療を提供する。
- 高齢者血液疾患に対して、**臍帯血移植を含む造血幹細胞移植療法など安全かつ効果的な治療を推進**する。

③生活機能の維持・回復のための医療

- 慢性心不全看護認定看護師を中心とした心不全チームの活動として、**患者・家族とともにACP「人生会議」の取組を推進**する。
- 入院の早い段階から患者の症状に応じた疾患別リハビリテーションを実施するとともに、土曜日にもリハビリを実施する。加えて、廃用防止ラウンドを活用しながら、**病棟でも離床が進めやすくなるように看護師ができるリハビリ指導などを行い**、重症化予防と早期回復・早期退院につなげる。



【ACP人生会議ロゴマーク】

④医療の質の確保・向上

- 看護師の特定行為研修への派遣を実施**し、看護の質向上に貢献できる人材を育成する。さらに、診療看護師の育成に向けた検討を実施する。

【地域医療の体制の確保】

①救急医療

- センターと救急隊との間で、患者対応等に係る知識等についての研修を相互に実施**することで、一層の連携の強化を図り、円滑な救急患者の受け入れにつなげていく。

②地域連携の推進

- 高額医療機器を活用した画像診断や検査依頼の受け入れ、研修会、各診療科主催のセミナー、公開CPC**などを通じて、疾病の早期発見・早期治療に向けた地域連携の強化を図る。
- 地域医療機関からの高齢患者の紹介を積極的に受け入れていくため、**高齢者を総合的に診察する高齢診療科を新たに開設**し、地域包括ケア病棟も活用して受入を推進するなど、一層の連携強化を図る。



【高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究】

- **膵がんにおけるがん幹細胞の形態解析と膵がんの新しい転移メカニズムの解析**を進める。
- **サルコペニア及び神経筋難病の予防法及び治療法の開発**を目指す。
- 咀嚼・嚥下などの運動による副交感神経刺激を介した**骨粗鬆症予防メカニズムの解明や臨床応用**を目指す。

【高齢者の地域での生活を支える研究】

- **社会的フレイルの概念**が、研究者により定義・目的・用途が統一されていないため、**学会も巻き込んだ議論を実施しつつ、概念整理**を行う。

【研究推進のための基盤強化と成果の還元】

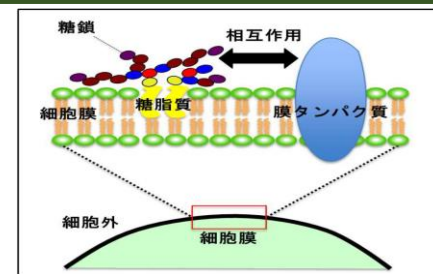
- **センター全体の知財活動を奨励**し、特許出願やライセンス契約等知財活用事例の増加を図る。
(特許出願件数目標…H31:2件⇒R2:5件)
- 引き続き、**認定臨床研究審査委員会**として、外部研究機関の研究審査・管理にも適切に対応する。

【医療と研究が一体となった取組の推進】

- 都立産業技術研究センターや国立長寿医療研究センターとの包括連携協定を活用し、**ロボット技術等の医療現場への活用**に向けた研究を推進
東京都医工連携HUB機構や板橋区と連携し、**臨床ニーズ発信による医療機器開発**に貢献

【認知症支援の推進に向けた取組】

- **認知症支援推進センター**において、医療従事者の認知症対応力向上に向けた支援として、**島しょ地域を含む都内区市町村**に対し、訪問研修や相談支援、認知症初期集中支援チームの**活動支援を実施**する。



【膵がんの増殖、浸潤における糖鎖の役割】

東京都・板橋区 医工連携交流会
in 東京都健康長寿医療センター
令和元年度 第10回クラスター研究会

1月22日(水) 14:00~17:30
参加費無料
定員40名

14:00-14:15 開会挨拶
14:15-14:25 イントロダクション
14:25-15:25 料理 藤浩 氏
15:25-16:25 講演・交流会
16:40-17:30 名刺交換・情報交換

会場内では板橋区内ものつり企業の商品・技術展示をおこないます。
※展示品は無料です。展示品に関するお問い合わせはご遠慮ください。
展示品は土曜日のみ受付となります。お申し込みは、お申し込みの欄をご覧ください。

お申し込み方法
① 申し込みフォーム: <https://forms.gle/8yL9v9v7v7v7v7v7>
② 電話予約: 03-5201-7322
③ ファックス: 03-5201-7322

お問い合わせ先
東京都健康長寿医療センター 企画課 企画係 03-5201-7322

【東京都・板橋区 医工連携交流会】

【高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成】

- 引き続き高齢者看護エキスパート研修の対象に外部の関連施設を含めるとともに、公開講座として各回ごとの参加も可能とし、訪問看護ステーション、都立病院、公社病院をはじめとして、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム等**幅広い施設からの参加を募り、スキルアップを支援**していく。

【地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化】

- **事務部の組織を再編し、情報管理部門の強化を図る**など、センター全体の効率的・効果的な業務執行を支援していく体制構築を推進する。
- **全診療科の予定入院患者の入院サポートセンターを設置**し、円滑な入院医療の提供等につなげるとともに、高齢者の入院日数の長期化を抑制することで、病床利用率の一層の向上等に繋げる。
- **診療報酬請求**の正確かつ確実な実施に向けて、**施設基準の会議による管理、研修実施**による職員の技能向上などに取り組む。
- 令和元年度に策定した**診療科別原価計算の結果を踏まえた診療科別アクションプラン**で設定された目標の達成状況の**進捗管理等を適切に実施**することで、経営改善に向けた取組を推進していく。
- **センター内各部署から提出された案を基に設定されたコスト削減方策の着実な実施**に向けて取組を進めるなど、経費の不断の見直しを行い、経営改善に努める。



【高齢者看護エキスパート研修】

《参考》数値実績の年度推移

表1



表4

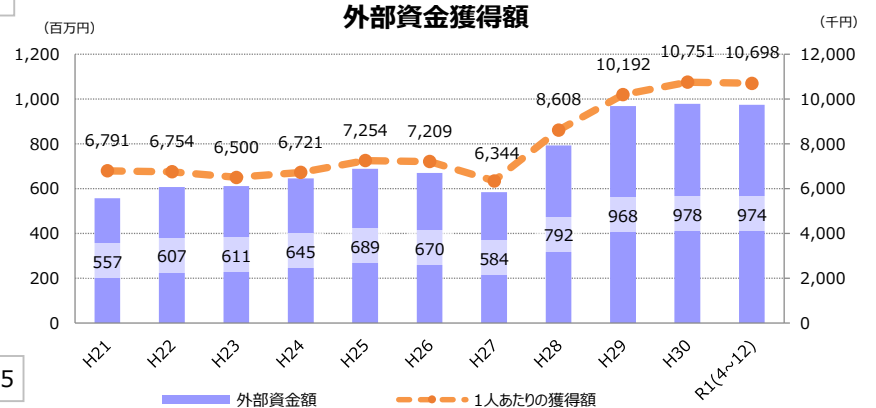


表2

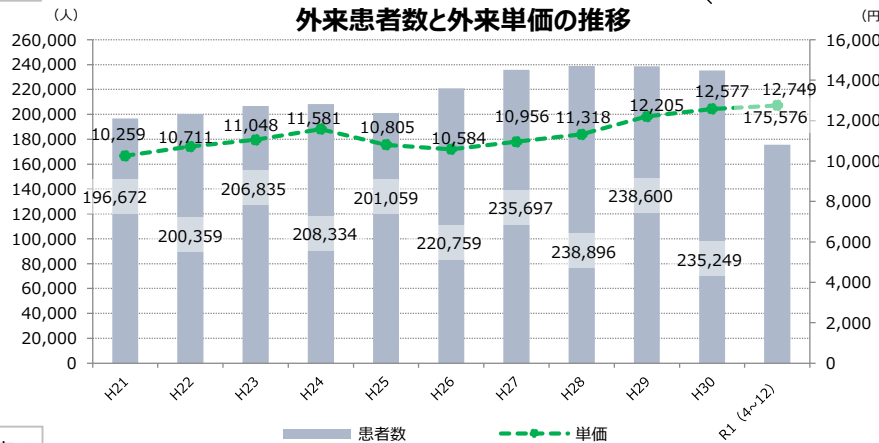


表5

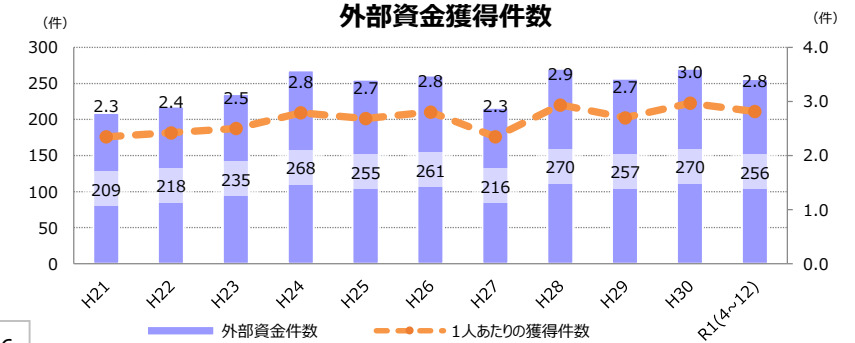


表3

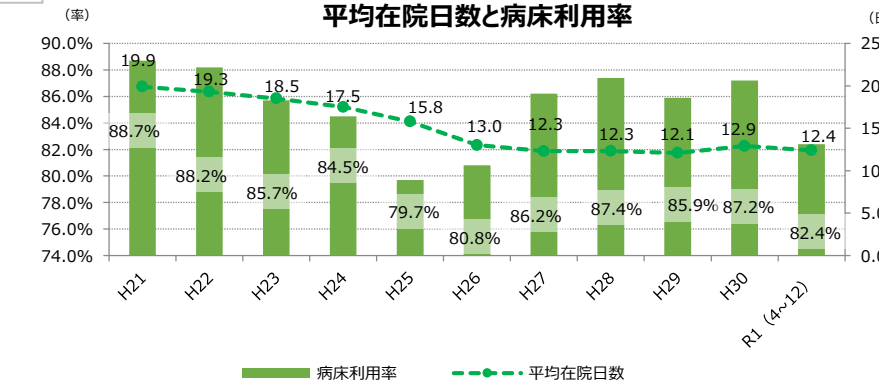


表6

